

Q₁

がんの治療には どんな方法がありますか？

「がん」の治療には、①**手術療法**；外科的に「がん」を切除してしまう方法、②**放射線療法**；放射線によって「がん細胞」を壊してしまう方法、③**薬物療法**；細胞の分裂に障害を与える薬物や「がん細胞」の分子的な特徴を攻撃する薬物を用いて「がん細胞」の増殖を抑える方法、④**免疫療法**；自身の免疫力を増強させて治療する方法——などがあります。手術療法と放射線療法は「切除した部位」もしくは「放射線をあてた部位」にのみ治療効果を及ぼすという意味で、局所的な治療といえます。一方、薬物療法や免疫療法は全身の目に見えない細胞レベルの「がん細胞」にまで治療効果を及ぼす可能性があるという意味で、全身的な治療といえます。通常はこれらを組み合わせて行う治療（集学的治療と言います）を行っています。

例えば「乳がん」の場合、乳房に出来た「しこり」に対して、乳腺を部分的に切除する手術治療をおこないますが、多くの場合それだけで治療が終わるわけではありません。残りの乳房に対して放射線治療を行うことで、乳房内での再発を防ぐことができます。また、場合によっては、抗がん剤による化学療法や、ホルモン療法、あるいは

分子標的治療などを使用して、乳腺以外の目に見えない微小ながん細胞を消滅させてしまう必要があります。

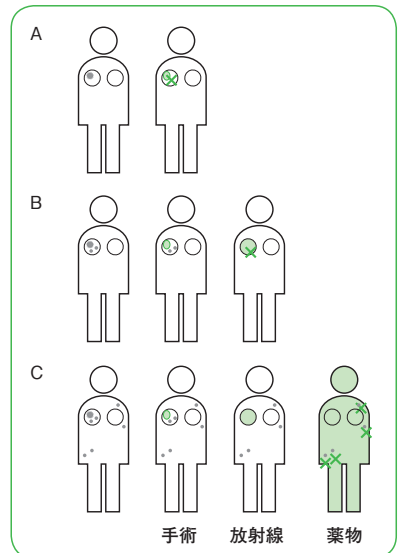
現在、さまざまな「がん」で、どの治療を、どの順番で、どのように組み合わせていけば最良の結果がえられるのか「ガイドライン」が作られています。各治療法の良いところ、悪いところを本書で知っていただき、がん治療に係わっている医療者とよくご相談いただいて、あなたにとって理想的な治療を受けてください。（陶山浩一）

例えば…(右の図で示しておりますように)

Aさんは手術のみで「がん」が取りきれていましたが、

Bさんは手術だけでは残りの乳房に「がん」が残る可能性があり、放射線治療が必要となりました。

Cさんは手術と放射線治療だけでは他の臓器に「微小ながん」が残る可能性があり薬物療法の追加が必要となりました。



それぞれの進行度、特徴に合わせて治療法を選択する必要があります。